

5. 評価5項目に係る質問票回答結果

評価5項目についての質問票回答結果

評価項目	Yes-No 式質問		記述式質問	
	質問	回答 ポジティブ ネガティブ	質問	回答
実施プロセス	技術移転	1.過去の日本の協力から学んだか	KNSDI 促進に何ができるか	ベースデータ提供,アイデア提供, KNSDI 事務局業務,ナイロビ市での地理情報フレームワーク構築の経験の共有
	雇用の安定	2.SOK に長年勤められるか	困難な場合、問題は何か	施設不足,定年(55),転職
	投入	3.ケニア側で旅費負担は可能か	ケニア側ほどの程度予算負担できるか	旅費,協議次第,地理情報センター,車両
	阻害・促進要因	4.プロジェクト実施上の阻害要因はあるか	プロジェクト実施上の阻害・促進要因	阻害:財政・熟練者・施設・政策・標準の不足 促進:熟練者,土地,熱意,E 政府政策,既存データベース
妥当性	受益者ニーズ	5.政府機関のニーズと合っているか	なぜそう思うか	計画・判断に重要,データ共有・重複防止・標準化を促す,コスト低減
	担当者ニーズ	6.担当者のニーズと合っているか	日本にどんな協力を期待するか	財政,専門性,研修,資機材,政策立案支援,技術移転,データベース拡張
	政策	7.ケニアの政策と合っているか	具体的な政策・文書	国家開発計画(02-08),土地定住省戦略計画 03/4- 05/6,SOK の職務,貧困削減戦略,土地政策(原稿),E 政府戦略, ICT 政策
有効性	関係機関	8.関係機関はプロジェクトに協力的か	なぜそう思うか	必要な地理情報を低コストで入手可,各機関の能率向上可,同様プロジェクト参加機関あり,マーケティング活用可,データ共有・重複防止可, KNSDI 各委員会の出席状況
効率性	外部条件	9. 関係機関は GIS 利活用に積極的か	なぜそう思うか	セミナー参加状況,既に広範に使われてる,問題解決に活用可,GIS ラボあり,記録管理・情報発信のため
		10.GIS 導入を計画している組織を知っているか	誰か、導入の障害は何か	誰:ナイロビ市,地方政府,土地・公共事業・教育各省,警察,SOK・計画・土地各局(土地省), DRSRs,統計局, JKUAT, UoN, KISM, Kenya Polytechnic, RCMRD, National Water & Pipeline Cooperation, Nairobi Water Company, NGOs,研究機関,銀行 障害:技術者,機材,ソフト,標準,予算,デジタル地図,技術力
インパクト	阻害・促進要因	11.GIS 利活用促進の阻害要因はあるか	GIS 利活用促進の阻害・促進要因	阻害:NSDI の不在,啓蒙の必要,予算・人員・機材不足,裨益認識の不足,情報共有への恐れ,高価なソフト,標準不在,著作権,更新不足,政府の官僚主義 促進:社会のデジタル化,既存アナログデータ,政府の意思,既存インターネット,GIS の学位
	その他の波及効果	12.GIS は全国的に使われるようになるか	いつ、どのように GIS を使うか	いつ:経済が改善された時,知識が普及した時,数年後, 10 年後, NSDI 構築後 どのように:エイズ予防,意思決定,計画,教育,研究,データ管理,問題解決,防災,地形・地籍
		13.プラス・マイナスのインパクトはあるか	プラス・マイナスのインパクト	プラスのみ:重複を防止し、効率的に廉価なデータ収集が可能,国家開発,ガバナンスの透明性,統合化・標準化したデータベース構築,人材育成
	外部条件	14.KNSDI の各委員会は正式に発足するか	いつ、どのように	すぐ,WG は立上げ済みでステアリングコミティーは準備中,立上げ済み, KNSDI 政策承認後,次回のワークショップで

インパクト	外部条件	15.KNSDI の制度作りは進んでいるか		誰がイニシアチブをとっているか	SOK-土地省, Legal WG, KNSDI 参加者, KNSDI 事務局, 土地局-土地省
		16.GIS の需要増は見込めるか		誰がどのように使うか	誰: 土地登記事務所, 計画担当者, 地方政府, 防衛・公共事業その他各省, 警察, 研究機関, 大学, NGO, 国際機関, 投資家, デイ・ロッパー, 銀行, 通信業者, 技術者, 経済担当者, 一般市民 どのように: データ交換, 意思決定・計画, 環境情報管理, 防災
		17.地図の購入・開示に防衛省の許可があるか		地図購入手続きを簡略化できるか	限定的, 協議次第, 防衛省も KNSDI に代表者を送っており関係者として取り込んでいる
自立発展性	組織・財務	18.SOK は組織・財務面で持続能力はあるか		なぜそう思うか	促進: データ販売による収入, NSDI の重要性に政府が投資するだろう, SOK が政策目標に掲げている 阻害: 予算・技術・機材不足
		19.SOK は関係機関と協力関係を維持できるか		どう維持するか	同意書 (MoU) 締結, KNSDI 委員会として, ワークショップ・セミナーを通して, 情報交換を通じて
		20.日本投入機材のリストはあるか		リストの添付	なし
	政策	21.長期にわたり KNSDI を支援する政策はあるか		なぜそう思うか	ニーズ増加が見込める, 政府が興味を持っている, KNSDI の利益は認識されている, 販売利益が得られる, 次官がリードしている, 複数の政策が支援している
		22.政府は KNSDI 支援のための制度・予算を提供できるか		なぜそう思うか	楽観論: 国家目標である, 優先度が高い, 開発に貢献する, 貧困削減に重要, 法改正の準備中, 政府の利益になる, 政府は IT 開発に敏感 慎重論: 予算不足, 政府の優先順位付けによる, KNSDI 政策承認後は可能
阻害・促進要因	23.持続性の阻害要因はあるか		持続性の阻害・促進要因	阻害: 予算・熟練者・啓蒙不足, 高価なコンピューター・ソフト, 高離職率, 政府の不透明な優先順位付け 促進: 職員のやる気, 専門性, 政府・市民のニーズとの合致	
その他	その他	コメント			9名から KNSDI の効用・重要性, SOK の熱意等についてのコメントがあった

6. 質問票回答

1. Government organization and government policy

Item	Description	Availability (Y/N)	Note (response)
Central Government	(1) Organization chart (The Ministry of Lands)	Y	See P.51-52, Strategic Plan for 2003/4-2005/6
	(2) Annual budget with breakdown	Y	See P.27, Strategic Plan for 2003/4-2005/6

2. Organization concerning map and GIS

Item	Description	Availability (Y/N)	Note (response)
1. SOK (Survey of Kenya)	(1) Organization chart (Inside)	Y	See the Existing Organization Chart for the Survey Department
	(2) Number of staff and engineers	Y	See P.25, Strategic Plan for 2003/4-2005/6
	(3) Role and the number of staff and budget of each section	Y	See P.7, Strategic Plan 2005-2009, Dept. of Surveys. and Sustainability of NMA
	(4) Annual budget with breakdown for recent 5 years	Y	See P.22, Strategic Plan 2005-2009, Dept. of Surveys.
	(5) Work Plan of each section	Y	See P.7, Strategic Plan 2005-2009, Dept. of Surveys.
2. Other agency owns their mapping	(1) Name of the organization	N	
	(2) What kind of topographic and thematic maps, GIS they owns	N	

3. Existing data and information

Item	Description	Availability (Y/N)	Note (response)
1. Topographic maps (in SOK and other agencies in Nairobi)	(1) Existing topographic maps <ul style="list-style-type: none"> - Scale of map - Disclosure policy - Coverage area - Index of topographic maps - Date of preparation - Executing organization - Storage conditions and availability of maps 	Y	All of maps/data published by SOK are shown in the brochure, "Catalogue of Maps" and others.
2. Thematic maps (land use, soil, geology Others) (in SOK and other agencies in Nairobi)	(1) Existing thematic map <ul style="list-style-type: none"> - Scale of map - Disclosure policy - Coverage area - Index of topographic maps 	Y	

<p>3. Geographic Information System (GIS) (in SOK and other agencies in Nairobi)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Date of preparation - Executing organization - Storage conditions and availability of maps - Purpose of use - <p>(1) Existing GIS</p> <ul style="list-style-type: none"> - Scale of contents - Disclosure policy - Coverage area - Date of preparation - Executing organization - Purpose of use 	<p>Y</p>	
--	--	----------	--

4. Standardization

Item	Description	Availability (Y/N)	Note (response)
1. GIS Data research	(1) Existence of any researches for GIS data to NSDI Committee. If yes, the results of the researches.	N	No actual standard is existing.
2. Standardization	(1) Existence of any efforts to make geographic information standard. If yes, the results /the report of the efforts.	Y	See Survey for Establishing Standards for Digital Geospatial Data in Kenya

5 .NSDI Diffusion

Item	Description	Availability (Y/N)	Note (response)
1. Diffusion system in SOK	(1) Distribution material <ul style="list-style-type: none"> - Topographic maps - Thematic maps - GIS (2) Sales system (3) Price of maps (4) Publication system <ul style="list-style-type: none"> - Publication - Internet Web Page 	Y	All of maps/data published by SOK are shown in the brochure, "Catalogue of Maps" and others.
2. Infrastructure for IT Society in Kenya	(1) The diffusion of Internet / the number of Internet users in the member organizations of NSDI Steering Committee. (2) Existence of any legal restriction on GIS data publication through the Internet.	N	SOK has no internet facility except PCs which connect by dial-up.
3. GIS needs	(1) Existence for needs of new GIS development. If the answer is "yes" <ul style="list-style-type: none"> ➤ Which area/field ➤ The purpose ➤ Existence of the necessary map/graphic data and statistical data for the GIS development. 	Y	Though, there are lot of needs of GIS, it is stucked because of insufficiency of capability.

6. Other Information

Item	Description	Availability (Y/N)	Note (response)
1. Activity by other donor countries for surveying, mapping and GIS	(1) Past and present activities by other donor countries (2) Project report (3) New proposal submitted by other donor countries (4) Committed process for the Individual project by your government	Y	See Mapping Programme Kenya. (There were several activities before. Documents of them are not available.)
2. Mapping project in other cities (not in Nairobi) in SOK	(1) Present Situation	Y	Mombasa, now it is on the planning stage.
3. Any specific laws and restriction related to survey, mapping and GIS	(1) Laws and restriction (2) Others.	Y	See the Survey act.
4. Availability of counterpart laborer	(1) Driver (wages / day) (2) Workers (wages / day) (3) Regulation for employment	Y	(1) 1,500-2,000 Ksh/Day driver only 7,000-8,000Ksh/Day
5. Availability of transport	(1) Government vehicles or rental cars	Y	includes car and fuel (According to the "AVENUE" driver)

7. ヒアリング結果

現地視察・ヒアリング結果

SOK 及び関係する行政・研究機関の担当者に、NSDI と関連する担当業務の現状や今後の課題、NSDI 構築にかかわる期待と問題点、日本からの援助に対しての期待等の聞き取りを中心に調査を行った。

日程	ヒアリング相手先・面会者
3月2日(木)	土地省測量局 測地・コンピュータサービス部 (Geodetic and Computer Services) Bowers Nderma Owino 氏 (同部担当の Senior Assistant Director)
3月3日(金)	土地省測量局 地図部 (Mapping) Cesare N. Mbaria 氏 (同部担当の Senior Assistant Director)
	土地省測量局 地籍部 (Cadastral) Murugu 氏 (同部担当の Senior Assistant Director)
	Ngomo 氏 (同部の GIS エンジニア)
3月6日(月)	土地省測量局 コンピュータサービス部門 John Mwaïro 氏 (同部門の責任者)
	土地省測量局 ケニア測量地図学院 (KISM) P.K. Wanyoike 氏 (同学院の Deputy Principal)
3月7日(火)	環境天然資源省リモートセンシング・資源調査部 (DRSRS) Charles Situma 氏 (同部部長級技術者)
	Otieno Tom 氏 (同部課長級技術者)
	ケニア土壌調査所 Peter Kamoni 氏 (同部部長級技術者)
3月8日(水)	ナイロビ大学測量学部 (Dept. of Survey) Galcano Canny Mulaku 教授 (同学部教授)
	ナイロビ市都市計画部 (City Planning Department, City Council of Nairobi) John Koyier Barreh 氏 (同部の Assistant Director)
3月10日(金)	開発地図資源地域センター (Regional Center for Mapping of Resources for Development) Hussein O. Farah 博士、Tesfaye Korme 博士 同センターの Senior Surveyor、Associate Professor、Senior Remote Sensing Officer
3月23日(木)	ナイロビ大学コンピューティング・情報科学部ディレクタ Katherine W. Getao 博士

* ケニアでは名刺交換があまりなされないため、一部役職などの情報が不足している。

1. SOK の地理情報利活用及び既存図デジタル化

ここでは、SOKにおける地理情報利活用に関してヒアリングを行った。

意見をきいた関係者によって若干スタイルが異なるが、基本的には従事している業務内容や今後の課題、NSDI 構築に関する意見、日本からの援助に対する期待といった点に重点を置いて意見集約を図った。

また文中、組織上では Senior Assistant Director (上級局長補佐)ではあるが「部長」と呼称している。

1-1 測地・コンピュータサービス部 Bowers Nderma Owino 部長：
NSDI ワーキンググループ担当 (3月2日)

(1) NSDI ワーキンググループ設立の経緯について

2002 年に開催された第 2 回ワークショップでワーキンググループとしての組織を設立した。この直前に NSDI 構築の協力の必要性を説いた協力依頼を、大統領府を経由して各省あてに配布している。同年のナイロビ市 GIS 整備プロジェクト開始と同時に POLICY PAPER 作成及び既存図のデジタル化業務に着手している。

2003 年には日本への援助を要請する一方、2005 年に POLICY PAPER (第 1 版) の完成をみた。これについて昨年(2004)の NSDI ワークショップにおいて：

- 実施のスケジュール
- 必要性に関する理由づけ
- 他プロジェクトとの連携

を補強して第 2 版とする決議を得て現在作業中である(以上、大筋での変更はない)。

(2) NSDI 構築における障害について

大きく分けて、機材の不足、人材の不足、過去、他国ドナーによる地形図作成においてそれぞれに都合の良い測地系基準が採用されたことによる、異なる 4 測地系が同国内で混在している現状が NSDI 構築に関する障害と考えている。

(3) 日本からの援助に対する期待について

- 中縮尺による基盤データ整備での機材の支援、及び、それら地形図に関する品質管理・データベース運用の人材育成を希望する。
- ケニアにおける地理情報標準の整備は既に着手しているが、ノウハウがないため進展に限界がある。このような分野を指導できる専門家の派遣を希望する。
- 地図データのネット提供に関して、機材が欠如している一方、人材も不足している。これら機材の供与及び人材育成を望む。

1-2 地図部 Cesare N. Mbaria 部長 (3月3日)

(1) 担当業務の現状と課題

地図部では、地図作成及び印刷双方の業務に総計 60 名の技術者を擁している。縮尺は 100 万分～5 万分の 1 と多彩な縮尺での地形図整備を行っている。現在、機材不足から地図更新が滞っている。2002 年～2005 年の JICA による“ナイロビ市 GIS データ基盤整備計画調査”は SOK の近代化に大きく貢献したと評価している。一方で一般の地図ユーザーからの意見収集の仕組みがないため、これら地形図の利用状況・用途について SOK として把握はしていない。

(2) NSDI 構築に関して

政府機関・非政府機関の間の情報共有は重要と考えている。貴重な情報の再利用により、行政サービスの効率化やひいてはデータ作成者に対するリファンドが実現可能だと思う。NSDI はデータ作成者・データ利用者双方にとって有益な仕組みである。

1-3 地籍部 Murugu 部長 (3月3日)

(1) 担当業務の現状と課題

市町村を通じて提出される地籍の変更等の情報を検査、登録・認可する業務を行っている。業務上の問題点として、地図や添付書類の紛失がある。土地売買の際は、隣接区画の記録も必要となるため、売買前にはこれらの境界の確定が改めて必要となる。現在、年間 1 万件の割合で区画情報のデータベース化を進行中である。NSDI の基盤情報の活用、作業プロセス効率化及びセキュリティ確保(申請書類の偽造防止)を目標としている。

(2) NSDI 構築に関して

様々な機関との協力関係は重要だと思っている。現状でも地籍情報を政府関連機関に情報提供・交換を行っているので、これらが効率化されることは大変ありがたい。

(3) “ナイロビ市 GIS データ基盤整備計画調査”

計画調査によって、ナイロビ市役所に設置した地籍情報モデル GIS システムに関しては、直接の担当でないため内容はよく分からない。ナイロビ市役所から同システムに関する問い合わせはこれまでない。

1-4 GIS 部門技師 Mwaïro 氏 (3月6日)

(1) 担当業務の現状と課題

既存の地形図のデジタル化(ベクター化)を進めている。大きな目的はデータ交換の手間を省くことである。スキャナーで読み込んだ地形図データをラスター・ベクター変換ソフトで変換し、GIS でベクターデータへの変換を行っている(手順は次章で詳述する)。現在、スキャナー 2 台、PC 8 台の機材、技術者 12 名によって年間 50 面弱

のベクター化を進めている。

(2) NSDI 構築に関して

NSDI によって、教育や都市計画などへの地図情報が大いに活用できるものと期待している。

(3) 日本からの援助に対する期待について

ソフトウェア的なもの、どの方法を使えば効率的なのかといったガイダンスを期待している。4つの測地系乱立に対する業務上の支障は、中縮尺であり直接の影響は出ていないためそれほど強くは感じてはいない。ただし標準化の必要性は強く感じている。

1-5 KISM Wanyoike 副校長 (3月6日)

(1) 担当業務の現状と課題

KISM は研修・教育機関であり、長短のコースを運営している。長期コースとしては、ディプロマコースとハイヤーディプロマコースの2つがある。前者は高校卒業者の職業訓練であり、後者はプロフェッショナルのためのより高度なステップアップとして位置づけている。

KISM のスタッフは教員 45 名、管理部門 60 名の計 105 名の体制である。学生はディプロマ 247 名、ハイヤー 46 名が在籍中である (3月6日現在)。

この建物は JICA による無償援助によるものであるが、現状での課題として施設が狭いことがあげられる。あわせて教室のスペースや学生寮のフリーな空間も少ない。また一方、ここで研修を受けた者の卒業後の就職先が少ない、という問題も残っている。

(2) NSDI 構築に関して

NSDI は様々な地理情報を広く流通させるためのものにとらえている。KISM からの情報発信や外部の調査結果を取り込むのに必須のものと考えている。政府・民間の間でも情報交換を容易にする仕組みであり、社会的・経済的に効率化をもたらすものと思う。

NSDI の構築に際して、我々は各種有用な情報の整備や人材育成の支援ができると思う。障害として考えられるのは結局、各個人の認識 (awareness) の問題が大きい。さらに情報インフラの普及がまだ未成熟である、という点も考えられる。

(3) 日本からの援助に対する期待について

我々にとっても NSDI 構築はチャレンジである。コンピュータ・GIS 技術の面での更なる人材育成を期待している。地理情報の標準作成は必須であろう。一定の標準によって精度を保証することが肝心である。地理情報の Web 提供については地図の利活用

を進めるうえでとても良いアイデアだと思う。

2. 各関係機関の地理情報の利用現状と利用可能性

ここでは、SOK 以外の関係機関における地理情報の利用現状や利用可能性に関してヒアリングを行った。

意見をきいた関係者によって若干スタイルが異なるが、基本的には従事している業務内容や今後の課題、NSDI 構築に関する意見、日本からの援助に対する期待といった点に重点を置いて意見集約を図った。

2-1 DRSRS Situma 博士 (3月7日: 普及WGの長)

(1) 担当業務の現状と課題

DRSRS は、1977年に設立された地理情報・GISに関する環境省下の研究機関である。植生や野生生物の生息域等の地理情報整備及び農業生産予測などの情報分析を実施している。業務上の課題としては予算や設備(航空機や航空カメラ)の古さがある。

(2) NSDI 構築に関して

NSDI 構築が社会に与える影響は極めて大きいと思う。良い計画、良い決定、良い管理を提供するものである。このため、あらゆる者がデータアクセスできる環境は必要である。地理情報の扱いは難しく特殊である。一方、普及ワーキンググループの目標は、普通の人々が容易にアクセスできる環境を整備することにある。NSDI 構築に対する障害としては、構造(ストラクチャー)、政策(ポリシー)、データインフラがないことにあると思う。DRSRS としてはキャパシティ・ビルディングの面から構築の支援をしたいと思っている。

(3) 日本からの援助に対する期待について

ハード・ソフトに関するプロフェッショナル向けの人材訓練を期待する。

2-2 土壌調査所 Kamoni 博士 (3月7日)

(1) 担当業務の現状と課題

国家農業研究所は複数の研究所の集合体であり、土壌調査所はその一部である。ここでは、土壌の化学的・物理的・形成起源など様々な要素からの分類分析調査を実施している。農業・建設・環境等の分野で有用な情報を提供している。GISは1991年から導入して活用してきている。GIS活用の問題点としてソフトウェアのアップグレードが追いつかない点がある。

(2) NSDI 構築に関して

NSDI は政策である。政策がなければ研究機関の成果発表・利用の方法は各研究機関に任されてばらばらになり、全体としてみた場合非常に使いづらいものになってしまう。

我々の土壌データは 100 万分の 1 縮尺でケニア全土をマッピングしており、主要地域は 10 万分の 1 である。この情報は農業政策・土地利用などに大変貢献できている。

NSDI 構築を阻む障害は設備やソフトの面と思う。これによりユーザー間での協力が形成されていないのは残念だ。

(3) 日本からの援助に対する期待について

設備・テクニカルな人材育成・ソフトウェアの部分は期待している。地理情報標準は必須である。データの Web 提供はユーザーのアクセス改善の意味でよい考えだ。

2-3 ナイロビ大学測量学科 Mulaku 博士 (3月8日)

(1) 担当業務の現状と課題

専門は GIS である。GIS の開発・導入や NSDI 構築に関する研究を実施している。問題点はハードウェア、特に PC の不足にある。数々の GIS 関連ソフトがあるが PC が不足しているので研究が滞りがちである。

(2) NSDI 構築に関して

社会に与えるインパクトはとてつもなく大きい。現状ではどこにどんな地理情報があるか分からない。NSDI により早く確実にそれらにアクセスができることにより、行政サービスの効率化などが実現可能である。

概念上、NSDI を構築する要素は 1:データとメタデータ、2:政策、3:技術、4:組織的な枠組み、5:ユーザーから成っていると考えられる。

一方、構築のステップは、1:組織的な枠組み(既に取り組み中)、2:インベントリー(どこにどのような情報があるかの整理:着手中)、3:メタデータ整備、4:クリアリングハウス構築(3,4 いずれも未着手)と分けられる。これらのステップは、情報インフラの普及と連携する必要がある。また、国際家畜研究所(International Livestock Research Institute: ILRI)・国際アグロフォレストリー研究センター(International Centre for Research in Agroforestry: ICRAF)・DRSRS 等の研究機関とも共同体制を構築する必要がある。

NSDI 構築を妨げる障害は、予算の不足、政府内の優先度が低いことと考えている。

(3) 日本からの援助に対する期待について

上述した 4 つのステップのうち、2. 以降の技術的な指導・訓練が考えられる。

2-4 ナイロビ市役所 Barreh 氏 (3月8日)

現在、ナイロビ市民 300 万人のうち 6 割が計画地域外のスラムに居住している。GIS により貧困削減に資する行政事務に広く活用が可能である (学校設置、地籍、税納付事務、診療所立地等の事例)。

GIS 普及の障害は、必要なデータ項目・範囲が満足にないことである (業務にかかわる GIS システムは特に現状で稼働しておらず)。

2-5 開発のための資源地図地域センター (RCMRD : Regional Center for Mapping of Resources for Development) Farah 博士 (3月10日)

(1) 担当業務の現状と課題

RCMRD はアフリカ 15 か国の支援により 1975 年に設立された測量・地図作成・GIS に関する専門機関である。主たる業務は、政府関係専門家向けの研修、政府関連プロジェクトでの地図化・GIS 等コンサルティング及び研究及び調査である。

(2) NSDI 構築に関して

NSDI のコンセプトは開発情報委員会 (CODI) 会合が基になっている。既に近隣諸国で NSDI 構築は取り組みが始まっており、ケニアはむしろ遅れている部類に属する。

NSDI の主たる概念は、重複投資の排除であり、インターネットには依存しない。NSDI 構築のステップは簡単ではない。セミナー・ワークショップ等の開催によりデータ共有に対する誤解を解かなければならない。流通を考えるとデジタル形式への変換、メタデータ整備の取り組みが必要と考える。

(3) 日本からの援助に対する期待について

構築にかかわる多くの仕事のうち、ワークショップ開催や他省庁との調整、データ共有・交換に関するアドバイスは有用である。データの蓄積管理・共有に関する技術、地理情報標準などの面で技術指導があるといいと思う。

2-6 ナイロビ大学コンピューティング・情報科学部 Getao 博士 (3月23日)

(1) クリアリングハウス構築の経緯と結果

2000 年に、政府間開発機構 (Intergovernmental Authority on Development : IGAD)* の要請により、ナイロビ大学コンピューティング・情報科学部長 Getao 教授が、IGAD 加盟国向けのクリアリングハウス構築を試みた。

試みでは、まずソマリアを除く 6 か国の計 163 組織の組織概要、保有データ、ニーズ等についての調査を行った。その結果を踏まえてワークショップを行い、パイロット的にクリアリングハウスを構築することとなった。米国地質調査所 (United States Geological Survey : USGS) の基準をベースとしたメタデータを、各国に設けたノードに蓄え、ナイロビ大学で構築されたクリアリングハウスがそれらを結ぶ構想であった。

しかし、結局は空の様式を作成したのみで頓挫してしまい、現在もパイロットクリアリングハウスをすぐに参照できる状態にはない。

(2) クリアリングハウス構築失敗の原因

このような計画倒れとなってしまった最大の要因は、関係者が多岐にわたり、その調整ができなかったことだと考えている。各国、各組織で温度差が大きく、データ開示の可否及び必要性、メタデータの様式等について関係者間で折り合いがつかず、そのうち資金も枯渇して自然消滅してしまった。

(3) 今回のプロジェクトへの期待

現在では、進んだGISについての理解・増加する作成データ及びその重複・データをシェアできないことによる不都合・NSDI構築の動き等により、当時よりも周辺環境は整ってきている。一方、依然として、一層の普及活動、政治的な意思、SOKの主導的役割も重要であると考えている。

* IGAD : IGADの前身である政府間乾燥・開発機構 (Intergovernmental Authority on Drought and Development : IGADO) は、1986年にジブチ、エリトリア、エチオピア、スーダン、ソマリア、ケニア、ウガンダの東アフリカ7か国で、旱魃・飢饉対策、環境保全、経済協力等を目的として設立された。1995年、状況の変化に対応し、より活性化するため、IGADとして生まれ変わった。主目的は、食糧安全保障・環境保全、平和構築・安全保障及び経済協力にシフトし、事務局はジブチに置かれている。加盟国からの拠出金及び日本を含む援助国、国際機関からの支援で運営されている。

8. 収集資料一覧

番号	資料名	著者／編者	発行年月	形式
1	Survey for Establishing Standards for Digital Geospatial Data in Kenya, by Highland Surveyors submitted to JICA.	JICA	2003年3月	報告書
2	E-Government Strategy, Cabinet Office, Office of the President, March 2004	Cabinet Office, Office of the President (大統領内閣府)	2004年3月	コピー
3	Report on the Ministerial Land Information Management Systems, Ministry of Lands and Settlement, September	土地定住省 (現:土地省)	2003年9月	コピー
4	National Development Plan 2002-2008, Republic of Kenya	-	-	コピー
5	Profile, Regional Centre for Mapping of Resources for Development	RCMRD (開発のための資源地図地域センター)	-	パンフレット
6	Annual Report 2004, Regional Centre for Mapping of Resources for Development	RCMRD (開発のための資源地図地域センター)	-	パンフレット
7	Strategic Plan for 2003/4-2005/6, Ministry of Lands and Settlement	土地定住省 (現:土地省)	-	パンフレット
8	Existing Organization Chart for the Survey Department	測量局(SOK)	-	コピー
9	Strategic Plan 2005-2009, Department of Surveys, Ministry of Lands and Housing	土地住宅省 (現:土地省)	2005年1月	コピー
10	Sustainability of NMA (National Mapping Agency)	-	-	コピー
11	Catalogue of Maps published by Survey of Kenya	測量局(SOK)	2003年3月	パンフレット
12	NDITDB_250,000: DIGITIZATION STATUS MARCH 2006	測量局(SOK)	2006年3月	コピー
13	Mapping Programme Kenya (Digital Data preparation on 1:50,000)	測量局(SOK)	1973年	コピー
14	Copyright Information on Gep-Spatial Data Published and Supplied by Survey of Kenya	測量局(SOK)	-	コピー
15	End User Purchase Agreement on Gep-Spatial Data Published and Supplied by Survey of Kenya	測量局(SOK)	-	コピー
16	The Survey Act	-	1961年12月	コピー
17	Draft National Land Policy, Ministry of Lands and Housing	土地住宅省 (現:土地省)	2005年12月	コピー
18	Directry and Schedule of Duties, Department of Surveys	-	-	コピー
19	Appendices of KNSDI Workshop II	-	-	コピー
20	Authorised Establishment, Survey of Kenya, Ministry of Lands and Settlement	測量局(SOK)	-	コピー